KITA-NET NEWS 2018/11
きたネット ニュース

きたネットカフェ

きたネットインターン、酪農学園大学の五十嵐さやかさんの報告

【6/16 2018年度通常総会同日行事】

五十嵐さやか
酪農学園大学環境共生学類
野生動物保護管理学研究室 3年

きたネットカフェは、環境活動者と企業のためのSDGsセミナーと昆虫目線の北大自然観察＆分類学の基礎を学ぶ、2部構成でした。

1部のSDGsセミナーでは、(株)TREE代表取締役、GreenTVJapan・SDGs.TV プロデューサーの水野雅弘氏に「環境団体と企業はSDGsをどう実現していくのか」をテーマにお話しいただきました。会場は札幌カフェ会議室です。2015年に国連に採択されたSDGsは、持続可能な開発のための17のゴールとそれに基づく、169のターゲットからなる国連の開発目標です。現在、SDGsは多くの企業が方針の一部として取り入れています。では、北海道の環境団体や企業はどのように目標を達成していくのか。それは、自分の活動とSDGsの17のゴールとの繋がりを知ることから始まると水野さんは言います。誰と、どのような手段で連携することで、どのようなポジティブな連鎖が生まれ、何が壁となるのかを知ることにより、ゴールにつながるということをSDGsの12番目の目標である「つくる責任、つかう責任」を例に挙げ、わかりやすくご紹介いただきました。後半はワークショップを行い、参加者それぞれの団体・企業がどのようにSDGsを実現していくのかを考えるよい機会となりました。

2部は、北海道大学総合博物館昆虫研究学(資料基礎研究系)の大原昌宏教授に北海道大学敷地内をフィールドとした自然観察会および北海道の生物多様性と分類学についてお話しいただきました。

北大構内で実施した自然観察会では、それぞれの種に合わせた昆虫の採集方法について。アリなど地表・地中に生息する昆虫を採集するときは、ザルや吸虫管を用いた方法。樹上性の昆虫を採集する際のビーティング法、低木林、草原では捕虫ネットを使うスウィーピング法など、実践を交えて教えていただきました。

座学では、「知っているようで知らない昆虫の見分け方」がテーマ。昆虫は、世界に約95万種、日本だけでも約3万種が確認されており、世界の哺乳類数の6千種と比べると圧倒的に多いことがわかります。参加者の興味を引いたのがバイオミメティクス、昆虫の構造や機能から生まれた技術に感嘆の声が。

身近に多くいる昆虫ではありますが、知らないことが多いことに気づく、よい機会でした。

水野雅弘氏「環境団体と企業はSDGsをどう実現していくのかセミナー＆ワークショップ」

大原昌宏氏「昆虫目線で、とびきりマニアな北大観察会＆北海道の生物多様性と分類学セミナー」

助成申請書の書き方講座と助成制度の説明

【9/22 市民活動助成金セミナー 2018】

第1部「助成申請書の書き方講座」では、(一財)セブン-イレブン記念財団の小野弘人氏による、書き方のポイントを学ぶ講座と、申請書を記入して審査してみるグループワークを実施しました。申請書は6W3Hで記入すると内容が整理され、相手にも理解してもらいやすいそうです。Why(なぜ) Whom(だれに) Who(だれが) When(いつ) Where(どこで) What(なにを) How to(どのように) How much(いくら) How many(どれくらい)。グループワークでは、審査員の視線で申請内容を評価してみることで、表現の仕方や、強調点などを学びました。第2部「助成制度説明会」では、9制度の助成について内容や特徴を説明いただき、申請の際の注意点のほか、審査の要点や選考の傾向などもご紹介いただきました。「フリー懇親・相談会」では、質疑応答や懇談により担当者との面識ができ、参加者の個別の活動について申請のポイントを整理していました。

参加者と助成団体のマッチングにつながるセミナーとなり、大変参考になったという意見をいただきました。

【助成制度説明団体】
一般財団法人セブン-イレブン記念財団・独立行政法人環境再生保全機構・公益財団法人自然保護助成基金・日本郵便株式会社・一般財団法人前田一歩園財団・公益財団法人北海道新聞野生生物基金・公益財団法人秋山記念生命科学振興財団・協働事務局 公益財団法人北海道環境財団(北海道e-水プロジェクト・ほっく一基金)

共催：一般財団法人セブン-イレブン記念財団

ごみ拾いビーチウォーク報告

【6/3 ラブアース・クリーンアップin北海道2018】

「私たちの手で、キレイな浜辺を取り戻そう!」をキャッチフレーズにした石狩浜でのごみ拾い活動は、石狩浜特有の地形や貴重な植生を守るための活動でもあります。

今年の参加者は618名、収集したごみは昨年の2.6倍の重量となりました。風や波による漂着だけでなく、レジャー客のマナーの低下もうかがえます。参加者のほか、多くの方に海岸のごみ問題について考えてもらい、北海道の環境保全につなげるきっかけとなる活動になりました。

〔ごみ収集量〕
一般廃棄物4350kg　処理困難物1690kg他

共催：NPO法人北海道海浜美化を進める会
NPO法人ezorock
協力：石狩市、北海学園大学P-コネクション
NPO法人いしかり海辺ファンクラブ

きたネット会員

KITA-NET MEMBERS

NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター

大雪山の自然と歴史から「人と自然とのつながりを考える」

1997年より活動開始。当初はカヌー等を楽しむ体験観光が主でしたが、現在はタウシュベツ川橋梁などの産業遺産を絡めた自然体験、環境教育活動や環境保全活動が中心です。

東大雪地域は、自然が豊かであると同時に、大森林に依存した木材産業の盛衰、ダム工事、道路建設、観光開発等の歴史を持つ地域です。原生の自然そのままではない、人の手が入った自然であることを、自然の大切さを多面的にとらえ、「人と自然とのつながり」が現在過去未来に亘った学習につながっています。私たちは人と自然が関わってきた地域の歴史を紹介し、自然の大切さや自然と共存する道を参加者と共に考えていきたいとの思いで活動しています。

具体的には、旧国鉄士幌線アーチ型鉄道橋(北海道遺産)探勝ツアーで森林伐採の歴史を象徴する、鉄道遺産の紹介です。橋の形の流麗さが人気ですが、自然と人とのつながりを考えるエコツアーです。また地元小学校での環境教育を年100時限行い、上士幌町の自然の素晴らしさを伝え、故郷へ誇りを醸成しています。そして環境保全活動として、登山道整備・国立公園内清掃・山岳トイレ管理・糠平湖や自然歩道の管理、利用者指導などを行っています。

【電話】01564-4-2261
【HP】http://www.guidecentre.jp

台風損傷裸地の再生作業(植樹後の生育調査)

野幌森クラブ

森林は、多くの生命を宿すことができる生態系

壊すのは易く、作るには多大の労力と時間そして人の忍耐と理性が必要
＊＊

「野幌森クラブ」は「我々人間と森の生き物すべて」との良好な関係が「持続的に維持される共生の森の創出」を目指して、2002年より野幌森林公園をフィールドとして活動しています。

活動方針は(1)地域性種で満ちた原始性を感じる森林を再生すること、(2)森の住人である多様な生き物の生息に適した環境を維持すること、(3)森を利用する人間が野幌の森の大切さを知り合えるように互いに連携する活動を行うこと、です。

この約16年間の活動に対し、2018年6月に全国森林レクリエーション協会から林野庁長官賞が第30回森林レク地域美しの森づくり活動コンクールにおいて授与されました。

「野幌森クラブ」は高齢化が進んでいますが、上記の方針のもとに、「あわてず」「あせらず」「あきらめず」、会員各位の体力・気力・時間に合わせてスローなボランティア活動を続けていきます。これからは情報の重要性が増す時代。きたネットに参加の皆さんとの情報交換を活発に行っていければ、と思っています。

【電話】011-831-7235

きたネットチョイス

KITA-NET CHOISE

News　きたネットの活動報告です。

北海道の環境保全活動資料のデータベース「北の環境ライブラリ」OPEN

～酪農学園大学GIS研究室、北海道自然保護協会との協働で～

公益財団法人
自然保護助成基金の
助成を受けて作成いたしました。

「北の環境ライブラリ」は、北海道の環境団体の活動報告や、調査資料、団体パンフレットなどを一つにまとめた、北海道の市民環境活動のアーカイブスです。北海道の環境活動の歴史や成果を、気軽に検索、閲覧できます。地域や発行時期、キーワードなど、各種条件で検索して閲覧が可能です。2018年10月現在、本ライブラリには、北海道自然保護協会、きたネット関連団体の資料が、約2000点収められています。

- 環境保全活動に取り組む方や、研究者、学生、自治体、地域の環境活動について知りたい市民のみなさんが、北海道の環境保全を知る情報源としてご活用いただけます。
- 自分の地域にどんな環境課題があり、課題解決のためにどんな活動があるのかを知ることが、北海道、地域の環境を未来につないでいく活動につながります。
- 昨年オープンした「きたマップ」とも連動し、自治体の環境データや市民活動地情報などともリンクした、閲覧しやすい仕組み作りを行なっています。

あなたの地域の守りたい自然情報募集中！

情報提供はきたマップの「あなたの地域の守りたい自然」投稿フォームで投稿できます。
たくさんのご応募お待ちしています。

北の環境ライブラリ　【HP】http://kitamap.net/kitaenv/　　きたマップ　【HP】http://kitamap.net
あなたの地域の守りたい自然　【HP】http://kitamap.net/mamoritai/

Event　きたネット2018年度の主なイベントスケジュールです。
詳細はHPや、きたネットFacebookなどでお知らせします。

- **11/14(水)20:00～　きたネットラジオカフェ**
- **12/8(土)　きたネットフォーラム2018　会場：札幌エルプラザ**

●きたネットのネットワークに参加しませんか。　会員は以下の2種類です
1.正会員(市民環境活動団体・個人)年会費5,000円(1口)～総会における議決権を有します。
2-1賛助会員(企業・団体)年会費10,000円(1口)～総会における議決権は有りません。
2-2賛助会員(個人)年会費2,000円(1口)～総会における議決権は有りません。
●会員になると…各種連携事業の実施、広報協力、
会員間の交流・活動発表の場の提供、イベント参加費等の会員料金適用、
きたネットMLへの参加、各種環境情報の提供など。詳細は事務局にお問合わせください。